

JEAN-PIERRE
RAMPAL

1977

JAPAN ORCHESTRAL SOCIETY, LTD.

JEAN-PIERRE RAMPAU Flute Recital

September~October, 1977, Japan





1922年1月南仏のマルセイユで生れた。

彼の父ジョセフ・ランバルは、フルーティストで、長くマルセイユ音楽院のフルート教授をつとめ、モイーズと親交があった。

息子のランバルは、13歳から父の手ほどきを受けるようになったが、音楽家になるつもりはなく、やがて医者を目指して医科大学へ進んだ。

1943年医大在学中軍隊に召集されたが、特別の許可を得て、ドイツ軍占領下のパリ音楽院に入学し、フルートを専攻した。そしてこれが彼をして音楽家の道を歩ませる転機になったのである。

父からフルートと音楽一般の教育を授けられていたランバルは、パリ音楽院でも天才ぶりを発揮し、僅か5ヶ月で1等賞を獲得して卒業してしまい、パリ解放後のオペラ座に就職した。

1947年ジュネーヴの国際コンクールで優勝し、彼の名は一躍知れわたり、早速ウィーン歌劇場管弦楽団の首席フルート奏者に迎えられ、51年まで在席した。この間既に欧州はもとよりアメリカ、アフリカの各国から、リサイタルやオーケストラとの協演者として招かれるようになり、国際的な名声を次第に高めていった。

1956年パリ国立オペラ座首席奏者に就任し、そのかわりフランス管楽五重奏団とパリ・バロック・アンサンブル（1967年にこの合奏団は米日したが、その後ランバルは離れ、ラリーユが加わっている）を組織し、室内楽面でも精神的な活動を行うようになった。

やがてパリ・オペラ座も退き、独奏者、室内楽奏者及びパリ音楽院首席教授としての活動を続けるようになったが、近年益々多くなったソロ活動のため、室内楽からも遠ざかり専らソリストとして世界を駆け回っている。

黄金のフルート

「黄金のフルート」とは、彼の演奏に寄せられる讃辞であり、これが彼の演奏会のキャッチ

フレーズにもなったのであるが、ランバルが吹奏するフルートも金製の名器である。

彼は総18金製のフルートを常に2本携行しているが、その内の1本は、約100年前のルイ・ロットという大家の作で、もう1本は彼がアメリカのヘインズに特注して作らせた手造りの逸品である。

ランバルは曲に依ってこの2本のフルートを使い分けているが、いずれも世界で現存するフルートの中の最高の名器と定評がある。時価数千万円と思われるこれらの名器も、その真価を発揮させ得るのはランバル一人のみかもしれない。

天衣無縫の演奏

ランバルほど音楽を楽しく聴かせるアーティストはザラにいない。又彼自身も実に楽しんで吹いている。

彼にとって吹くことは決して難しいことではない。事実特に難しい曲は無いと彼自身が言っている。それが聴く者に、難曲と思わせないから、聴衆は真底から安心して楽しむことが出来るのである。

全くランバルのフルートの音は美しい。金銀宝石のように燦然と輝くかと思うと、仲秋の名月のような澄んだ美しさをみせる。又緯乱と艶を競う花園の如く、或は谷間の百合のように、等々どんな比喻でも言いつくせない美しい音が、唯一本のフルートからでてくることに心を奪われるのである。

「フルートのバガニーニ」「フルートの詩人」「悪魔の笛をもつ男」「天才」「名人」「超人」等々、世界中の批評家が彼に讃辞を寄せているが、一度彼の音を聴いた者は、じっとその音を胸の奥に仕舞い込み、当分の間一切の雑音を寄せつけないと思う。

全くランバルの演奏は神技であり、その音楽は天衣無縫である。

そのランバルはこよなく音楽が好きであり、その一心で実によく学び豊富な知識と高い教養を身につけ、常に観察力と理解力を養っている。彼の自宅にある文献資料の類はこのために夥しい量に上っている。そしてその結晶が彼の芸術となって現れているのである。

彼は年令的にもキャリアの上でも音楽家として完成の域に入ったといえよう。そして愈々巨匠といわれるであろう。

ランバルの人から

ランバルが偉大な音楽家であり、学者であり、教育家であり、そしてそれらの総和の上になつた大芸術家であることは、彼の演奏を聴いた者が直感できることである。

その大芸術家が、私生活では一口に言って底抜けに明るい性格で、毎日毎日を存分に楽しんで暮しているのだから羨ましい。

来日の都度彼と協演されている井上三葉さんの言葉を借りると「いつも、どこでも、彼はやりたいことをして、この世の楽しみを全部満喫しているみたい」であるが、又その幸せを各層の多くの人々と分けへだてなく分かち合うという優しい心の持主でもある。

ランバルの楽屋を訪ねてくるフルートを勉強中の高校生に突然手ほどきしたり、道行く老人に手をかけて横断歩道を渡ったり、ソバ屋で泣き出した赤ん坊をあやしたり、新橋の焼鳥屋で若いサラリーマン達と歓談したり、そんなシーンは数限りなく見られる。

又彼は底抜けに健康で、健啖家で、タフである。日本の料理は嫌いなものはないという彼は、特に活魚に目がないが、駅のプラットホームで天ぷらソバに日本酒をかけて食べるという不思議な通人でもある。

日本の古い建築には大へん興味をもち、神社仏閣庭園遊廓等を観てまわるかと思うと、藁葺農家や街道の山菜料理の店をたずねたりして古い情緒を味わうことが好きである。そして日本での宿舎は必ず畳の部屋で、休日には歌舞伎、文楽、能を鑑賞し、「日本は実に良いところだ。古い物と新しい物が、何の異和感もなくうまくとけ合って存在している」と喜んでいる。「畳の部屋というのは、部屋中がベッドになるので、そんなに広いベッドで寝られるのは日本だけだ」と言うのも彼らしい意見である。

ランバルとレコード

ランバルに聞くと、彼が録音したレコードは100枚以上になり、正確には憶えていない、と答える。おそらく世界中のソリストの内でもレコード録音の多い一人であろう。

これは彼のレパートリーのひろさからも出来

ることで、300年間にわたる、世界のあらゆる国（日本も含む）の作曲家を尊敬し、研究し、実に短い期間でその音楽を適確に把握してしまう。

彼をインタビューした者や、ファン達がよく彼に「あなたが最も好きな作曲家は？」と質問するが、より好みはしていない、と答える。それが事実であることは、彼のプログラムやレコードをみればわかる。しかし彼がモーツァルトを神の如くに慕っていることは本当で、生涯をその探究に捧げたい、と言っている。

ランバルのレコードは、バロックから現代にいたる実に広範囲なもので、その中には初めて世間に紹介された曲も夥しい数に上っている。そればかりではなく、もう一つの特徴は、世界中の第一級演奏家との協演が多いことである。彼は自分の音楽を理解してくれる演奏家なら誰とでも喜んで協演する。そして彼と協演した秀れた演奏家達も、ランバルは相手との協調に努めてくれるが、それでいて自分の方の音楽は少しも崩さず、その個性もしっかりと出ているという、名実共に名手である、と言っている。つまり十分に余裕があるからであるが、人柄も良いのであろう。

日本で録音したレコードはコロムビア、フィリップス、RCAでもう10枚位ある筈であるが、その協演者達が異口同音に、彼と合奏すると、いつもよりうまく演奏できると言っている。

又レコード会社のディレクターに言わせると、ランバル程録音の仕事がし易い人はいないそうである。彼は大へんな精力家で、疲れを知らないように、朝から晩まで吹きまくり、2日かかる30cm LP1枚を1日で、しかも完璧に録音し終ってしまう。途中自分が一寸でもうまくゆかないなと思うと、ディレクターから注文が出る前に、吹きなおして完璧なものにするから、手間がかからない。

最後に、コロムビアのディレクター結城享氏の話に附記しよう。「ランバルと一緒に仕事をして一番感じることは、音楽に対する全体のつかみ方のうまさである。細かいニュアンスやアヤを必要とするところは細心の神経の行き届いた演奏をし、大らかに吹くところは実に朗々と音を響かせる。又遊んでよいところは結構よい意味での「遊びの精神」を発揮している。そして彼は一枚の楽譜から直感的にその様式を掴みとるらしい。そしてその感じたものを確実に表現するテクニックを身につけているから、常に彼の仕事は非常に早く、適確であるわけだ。ランバルのレパートリーが非常にひろく、日本のメロディなども我々日本人が驚く位「適確な心」をもって演奏するのもこんなところにその秘密があるようだ。」

ジャン＝ピエール・ランパル ● 1977年 日本公演 ●
JEAN-PIERRE RAMPAL

公演日	開演	公演地	会場	主催	曲目
9月17日(土)	6:30	松江	島根県民会館	松江勤労者音楽協議会	A
9月19日(月)	6:30	広島	郵便貯金会館	広島勤労者音楽協議会	A
9月21日(水)	7:00	東京	東京文化会館(大)	財団法人 都民劇場	B
9月23日(金)	7:00	東京	東京文化会館(大)	梶本音楽事務所	F
9月24日(土)	6:30	倉敷	倉敷市民会館	倉敷市自主文化事業協会	D
9月26日(月)	7:00	大阪	大阪厚生年金会館(中)	梶本音楽事務所	F
9月28日(水)	7:00	神戸	神戸国際会館	神戸コンサート協会	E
9月30日(金)	6:30	徳島	徳島県郷土文化会館	徳島県芸術祭執行委員会・徳島県教育委員会 徳島新聞社・徳島県郷土文化会館	B
10月2日(日)	6:30	金沢	金沢市観光会館	石川テレビ放送・北陸中日新聞社 協賛 橋産業株	C
10月3日(月)	6:30	弘前	弘前市民会館	青森フルートクラブ	C
10月4日(火)	7:00	八戸	八戸市公会堂(中)	八戸新音楽協会	C
10月6日(木)	6:30	藤沢	藤沢市民会館	湘南音楽鑑賞協会	C
10月8日(土)	7:00	東京	日比谷公会堂	東京労音	B
10月9日(日)	3:00	名古屋	カトリック南山教会	名古屋ランパル・ファン・クラブ	
10月10日(月)	6:30	松本	松本市民会館	松本勤労者音楽協議会	C
10月12日(水)	6:45	東京	NHKホール	NHK交響楽団定期演奏会	G
10月13日(木)	6:45	東京	NHKホール	NHK交響楽団定期演奏会	G
10月14日(金)	7:00	東京	東京文化会館(大)	新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会	H
10月15日(土)	6:30	相模原	相模原市民会館	相模原勤労者音楽協議会	C
10月16日(日)	6:30	高山	高山市立南小学校講堂	高山市文化協会/後援:高山市	C
10月17日(月)	6:30	浜松	浜松市民会館	浜松音楽愛好者協議会	C
10月18日(火)	6:30	沼津	沼津市公会堂	沼津勤労者音楽協議会	C
10月19日(水)	6:30	平塚	平塚市民センター	平塚勤労者音楽協議会	C

提供：日本交響楽協会

協演者



井上 二葉 ピアノ

1951年東京音楽学校(現芸大)本科、ピアノ科卒業。53年同研究科修了。安川加寿子氏に師事。同年4月デビュー・リサイタル。56～58年渡仏、ラザール・レヴィ氏に師事。60年N響(マルティノン指揮)のソリストとしてマルタンの小協奏交響曲を演奏。67年渡仏23回のリサイタルに出演、あとベルルミュテル氏に師事。

69年N響(フルネ指揮)とフランス山人の歌による交響曲を演奏。同年9月フォーレ連続演奏会、71年東響定期、ラヴェル連続演奏会に出演。

74年フォーレの全ピアノ曲を4回に亘り連続演奏会を開催。福山賞を受賞。

76年16回目のリサイタルを開催。なお65年以来ジャン＝ピエール・ランパルの良き協演者として、米日の都度出演している。

広島エリザベート音楽大学ピアノ科教授。

延原武春と
大阪テレマンアンサンブル

1963年結成。聴衆と密着したサロン風のコンサートや街の広場でのコンサート、教会の聖堂でバッハなどの原典版演奏などユニークな活動を続け、ハンブルクのテレマン協会の援助を受けるようになった。

テレマンの《マタイ受難曲》の本邦初演や《ターフェルムジーク》全3巻の関西初演など着実な成果を上げたことによって、大阪文化祭賞、音楽クリティッククラブ奨励賞及び音楽クリティッククラブ賞、大阪府民劇場奨励賞、そして文化庁芸術祭優秀賞を受賞した。

大阪テレマンアンサンブル及び同室内合唱団を主宰し、オーボエ奏者でもある延原武春は、同アンサンブルの活動を通じて関西に室内楽活動の根を定着させるかたわら、指揮を秋山和慶氏に師事、各地で客演指揮を行う。大阪ユースオーケストラの指導では高い評価を受けている。

倉敷室内管弦楽団と
指揮者早川正昭

文化都市倉敷市にふさわしい、バロック音楽の演奏を主とするユニークな楽団として、昭和49年12月に発足した。倉敷市および近郊在住の音楽愛好家によるアマチュアの団体ではあるが、発足後3年に満たない短期間のうちにめきめき腕を上げ、岡山県内有数の楽団としての地位を確立した。

昭和50年12月以来、毎年1回定期演奏会を開く他、倉敷市内の合唱団との協演やサマーコンサート、市民音楽祭参加、NHK・FM放送、レコーディング出演など活発な活動を展開しており、これらの実績と楽団の力量が買われて今回ランパル氏との協演が実現した。現在の団員数は40名で、明年1月に第3回定期演奏会を開くことになっている。

指揮者の早川正昭は、東京芸術大学で作曲と指揮を学び、卒業の翌年の昭和36年東京ウィヴァルディ合奏団を創設、以来その常任指揮者としてヨーロッパ演奏旅行を成功させる他、日本の代表的な交響楽団を指揮するなど国の内外で活躍している。

石田 光男 フルート

1937年秋田県大館市生れ。1960年弘前大学を卒業。フルートは独学で始め、1972年よりオーレル・ニコレ氏に私淑し、73年にはジャン＝ピエール・ランパル氏の指導をうける。1974年3月、弘前における「フルートの祭典」でニコレ夫妻と共演。1976年小林道夫氏の指導によりバッハの《ブランデンブルグ協奏曲第5番》を演奏。現在、青森フルートクラブ・弘前室内楽集団所属。

プログラム

A

- 9月17日/松江
9月19日/広島
- ピアノ：井上 二葉
1. ヴィヴァルディ ソナタ ト短調
 2. C. Ph. E. バッハ 無伴奏ソナタ イ短調
 3. ドップラー ハンガリー田園幻想曲 作品26
-
4. シューベルト 「美しき水車小屋の娘」の主題による序奏と変奏曲 作品160
-
5. ビゼー 「アルルの女」のメヌエット
 6. 宮城道雄 春の海 (吉田雅夫編)
 7. 滝廉太郎 荒城の月 (矢代秋雄編)
 8. ジュナン ヴェニスへの謝肉祭

B

- 9月21日/東京
9月30日/徳島
10月8日/東京
- ピアノ：井上 二葉
1. ヴィヴァルディ ソナタ ト短調
 2. C. Ph. E. バッハ 無伴奏ソナタ イ短調
 3. ベートーヴェン ソナタ 変ロ長調
-
4. シューベルト 「美しき水車小屋の娘」の主題による序奏と変奏曲 作品160
-
5. エネスコ カンタービレとプレスト
 5. フォーレ 幻想曲 作品79 (9月21日 東京のみ)
 6. 宮城道雄 春の海 (吉田雅夫編)
 7. 滝廉太郎 荒城の月 (矢代秋雄編)
 8. 日本古謡 さくら・さくら (吉田雅夫編)
 9. ジュナン ヴェニスへの謝肉祭

C

- 金沢・弘前・八戸
藤沢・松本・相模原
浜松・沼津・平塚
- ピアノ：井上 二葉
フルート：石田 光男(弘前のみ)
1. J.S. バッハ ソナタ ト短調
 2. モーツァルト ソナタ K. 376
 2. J.S. バッハ トリオ・ソナタ ニ短調 BWV 1036 (弘前のみ)
 3. シューベルト 「美しき水車小屋の娘」の主題による序奏と変奏曲 作品160
-
4. 日本古謡 さくら・さくら (吉田雅夫編)
 4. 滝廉太郎 荒城の月 (藤沢のみ) (矢代秋雄編)
 5. 宮城道雄 春の海 (吉田雅夫編)
 6. ファルカス ルーマニア民族舞曲集
 7. ボルン 華麗なるカルメン幻想曲
 8. ショパン 夜想曲 作品15-2
 9. ドップラー ハンガリー田園幻想曲 作品26

D

- 9月24日/倉敷
- ピアノ：井上 二葉
管弦楽：倉敷室内管弦楽団
指揮：早川 正昭
1. ブーランク ソナタ
 2. フォーレ 幻想曲 作品79
 3. エネスコ カンタービレとプレスト
 4. 宮城道雄 春の海 (吉田雅夫編)
 5. ドップラー ハンガリー田園幻想曲 作品26
-
6. テレマン フルード協奏曲 ニ長調
 7. モーツァルト フルード協奏曲 第1番 ト長調 K. 313

E

- 9月28日/神戸
- 管弦楽：大阪テレマンアンサンブル
指揮：延原 武春
ピアノ：井上 二葉
1. ヴィヴァルディ フルード協奏曲 第1番 作品10-1 「海の嵐」
 2. J.S. バッハ 管弦楽組曲 第2番 ロ短調
-
3. シューベルト 「美しき水車小屋の娘」の主題による序奏と変奏曲 作品160
-
4. エネスコ カンタービレとプレスト
 5. 宮城道雄 春の海 (吉田雅夫編)
 6. 滝廉太郎 荒城の月 (矢代秋雄編)
 7. 日本古謡 さくら・さくら (吉田雅夫編)
 8. ドップラー ハンガリー田園幻想曲 作品26

F

- 9月23日/東京
9月26日/大阪
- チェンバロ：ロベール・ペイロン=ラクロワ
1. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 6 ホ長調 BWV 1035
 2. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 2 変ホ長調 BWV 1031
 3. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 4 ハ長調 BWV 1033
 4. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 1 ロ短調 BWV 1030
-
5. J.S. バッハ フルード・ソナタ ト短調 BWV 1020
 6. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 3 イ長調 BWV 1032
 7. J.S. バッハ フルード・ソナタ No. 5 ホ短調 BWV 1034

G

- 10月12日/東京
10月13日/東京
- 管弦楽：NHK交響楽団
指揮：岩城 宏之
- ハチャトリアン フルード協奏曲

H

- 10月14日/東京
- 管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団
指揮：小泉 和裕
- モーツァルト フルード協奏曲 第2番 ニ長調 K. 314

PROGRAM

A

- Matsue Hiroshima | Piano:Futaba Inoue
1. Vivaldi Sonata in g minor
 2. C.Ph.E.Bach Sonata for Flute Solo in a minor
 3. Doppler Hungarian pastoral fantasy, Op.26
-
4. Schubert Introduction and variations on a theme of "The maid of the mill, Op.160
 5. Bizet Menuett from "Arlé Girl"
 6. M.Miyagi The sea in Spring
 7. R.Taki Moon on the ruins
 8. Genin Carnaval in Venice

B

- 9/21 Tokyo | Piano:Futaba Inoue
Tokushima
10/8 Tokyo
1. Vivaldi Sonata in g minor
 2. C.Ph.E.Bach Sonata for Flute Solo in a minor
 3. Beethoven Sonata in B flat major
-
4. Schubert Introduction and variations on a theme of "The maid of the mill" Op.160
 5. Enesco Cantabile and presto
 5. Faure Fantasy Op.79 (9/21 Tokyo)
 6. M.Miyagi The sea in Spring
 7. R.Taki Moon on the ruins
 8. M.Yoshida arr. Sakura sakura
 9. Genin Carnaval in Venice

C

- Kanazawa Hirosaki Hachinohe | Piano:Futaba Inoue
Fujisawa Matsumoto Sagamihara | Flute:Mitsuo Ishida
Takayama Hamamatsu Numazu Hiratsuka (Hirosaki)
1. J.S.Bach Sonata in g minor
 2. Mozart Sonata K.376
 2. J.S.Bach Torio Sonata d minor BWV 1036 (Hirosaki)
 3. Schubert Introduction and variations on a theme of "The maid of the mill" Op.160
-
4. M.Yoshida arr. Sakura Sakura
 5. M.Miyagi The sea in Spring
 5. R.Taki Moon on the ruins (Fujisawa)
 - Farcas Rumanian folk dances
 7. Borne Brilliant Fantasy for Carmen
 8. Chopin Nocturne
 9. Doppler Hungarian pastoral fantasy, Op.26

D

Kurashiki | Piano:Futaba Inoue
Orchestra:Kurashiki Chamber Orchestra
Conductor:Masaaki Hayakawa

1. Poulenc Sonata
 2. Faure Fantasy Op.79
 3. Enesco Cantabile and presto
 4. M.Michio The sea in Spring
 5. Doppler Hungarian pastoral fantasy, Op.26
-
6. Telemann Flute concerto in D major
 7. Mozart Flute concerto No.1 in G major K.313

E

Kobe | Orchestra:Osaka Telemann Ensemble
Conductor:Takeharu Nobuhara
Piano:Futaba Inoue

1. Vivaldi Flute concerto No.1 Op.10-1 "Tempest of the sea"
 2. J.S.Bach Suite No.2 in b minor
-
3. Schubert Introduction and variations on a theme of "The maid of the mill" Op.160
 4. Enesco Cantabile and presto
 5. M.Miyagi The sea in Spring
 6. R.Taki Moon on the ruins
 7. M.Yoshida arr. Sakura Sakura
 8. Doppler Hungarian pastoral fantasy, Op.26

F

9/23 Tokyo | Cembalo:Robert Veyron-Lacroix
Osaka

1. J.S.Bach Flute Sonata No.6 in E major BWV 1035
 2. J.S.Bach Flute Sonata No.2 in E flat major BWV 1031
 3. J.S.Bach Flute Sonata No.4 in C major BWV 1033
 4. J.S.Bach Flute Sonata No.1 in b minor BWV 1030
-
5. J.S.Bach Flute Sonata in g minor BWV 1020
 6. J.S.Bach Flute Sonata No.3 in A major BWV 1032
 7. J.S.Bach Flute Sonata No.5 in e minor BWV 1034

G

10/12 Tokyo | Orchestra:NHK Symphony Orchestra
10/13 Tokyo | Conductor:Hiroyuki Iwaki
Khachaturian Flute concerto

H

10/14 Tokyo | Orchestra:New Japan Philharmonic Orchestra
Conductor:Kazuhiro Koizumi
Mozart Flute concerto No.2 in D major K.314

オランダ語で号令した 勝海舟、榎本武揚。

1855年(安政2年)、オランダ海軍のペルス・ライケン中佐が長崎海軍伝習所の教壇に立った時、日本の近代航海術の船出が始まったと言えるでしょう。オランダ人教師は熱心に講義し、日本人生徒はそれ以上に真剣に学んだといひます。その講義は、航海・測量・造船・船具・機関……などから、天文・地理・数学といった基礎科学にまで及びました。1857年(安政4年)、ヤパン号(咸臨丸)でやってきたカッテンディーケ大尉らが交代。講義はますます厳しさを加え、咸臨丸による練習航海もたびたび行なわれました。やがて日本人生徒の航海技術は、カッテンディーケ大尉も驚くほどの上達ぶりを見せたそうです。しかしオランダ人教師たちにとって最大の誇りは、勝海舟(1860年咸臨丸で渡米)・榎本武揚などの優れた人材を育てたこと……。彼らが、日本の航海術を世界一流にするための大きな礎となったことでした。

日本人との長い親善の歴史をもつオランダ人。そのオランダ人がつくりあげた、世界で最も長い経験をもつ国際航空会社(1919年設立)、それがKLMです。かつて東洋の果てまでも定期航路を開拓し、日本人に近代航海術を伝授したほどの海運の資質が、現在では世界中の空で発揮されています。東京～アムステルダム間のルートではもちろんのことです。

KLMのホームページ“アムステルダム国際空港”は、とても機能的で便利な空港として有名です。乗りつぎの際は、“動く歩道”を利用して、らくらくとスピーディに……。また乗りつぎの時間を利用して、ヨーロッパ最大の規模と安い価格で人気の免税ショッピングセンターでお買い物のが楽しめます。レストラン、コーヒーショップ、シャワールームなどの諸設備も完備。さらにKLMの日本人職員のお世話……と、いたれりつくせりです。ヨーロッパの空の旅は、KLMを利用して、アムステルダム経由でどうぞ。



日本にはじめて近代科学を紹介した オランダ人の、航空会社

6大陸を信頼性で結ぶ


KLM
オランダ航空会社

1. ヴィヴァルディ

ソナタ ト短調 Op.13の6

イタリア・バロック音楽を代表する作曲家のひとりであるヴィヴァルディ（1678～1741）は司祭の職についたこともあるが、生涯の大半をヴェネチアの孤児養育院（ピエタ）における音楽教育に捧げた。彼の器楽作品の殆どはこの少女達が演奏するために書かれたもので、当時の音楽水準の高さを物語っている。作品13は“忠実なる羊飼”というタイトルを持つソナタ集で、フルート、ミュゼット、ヴィエール、オーボエ、ヴァイオリンのいずれで演奏してもよいが、今日ではフルートで演奏されることが多い。第6番ト短調は第1楽章ヴィヴァーチェ、第2楽章アラ・ブレーヴェ（教会風フーガ）、第3楽章ラルゴ、第4楽章アレグロ・マ・ノン・プレストからなる。

2. C.Ph.E. バッハ

無伴奏ソナタ イ短調 Wq.132

大バッハの三番目の子供として生まれたカール・フィリップ・エマヌエル（1714～88）は兄弟の中でもっとも才能のある音楽家であった。ポツダムにあるプロセイン国王フリードリッヒ大王の側近音楽家として活躍し、フルートをよくした大王の伴奏をつとめたり、大王が演奏するためのフルート曲を作曲したりした。通奏低音つきのフルート・ソナタだけでも11曲残したが、このイ短調のソナタは1747年頃の作である。第1楽章ポコ・アダージョ、第2楽章アレグロ、第3楽章アレグロという楽章配置が本来のものであるが、現在は第1楽章と第2楽章を入れ替えて演奏することが多い。

3. ドップラー

ハンガリー 田園幻想曲

ドップラー（1821～83）はハンガリーの音楽家で、師リストのハンガリー狂詩曲をオーケストレーションした人としても知られている。この曲は名フルーティストでもあった自分が演奏するために書いたものであろう。3つの部分に分れており、第1部と第2部がゆくりしたラッサン、第3部が急速なフリスカというハンガリーの民族舞曲チャルダッシュの形式をとっている。哀愁をおびた東洋的な旋律によって特に日本において愛好されている曲で、原曲はオーケストラ伴奏である。

4. シューベルト

「しほめる花」の主題による序奏と変奏曲 Op.160(D.802)

歌曲の王といわれるシューベルト（1797～1828）が自作の歌曲集“美しき水車小屋の娘”の第18曲「しほめる花」に主題をとって7つの変奏をくりひろげるフルートとピアノのための二重奏曲として書いたものである。その前に置かれた序奏はきわめて靈感にみちあふれており、ロマン的な雰囲気をもたよわせている。1824年の作。

5. ビゼー

「アルルの女」のメヌエット

“アルルの女”組曲第2番の中の1曲として知られているが、この曲は“アルルの女”の劇音楽とは関係なく、ビゼーが28歳の時に書いた歌劇“美しきベルトの娘”の中の曲なのである。余りにも美しいこの曲が忘れ去られるのを惜しんだ友人ギローが、ビゼーの死後“アルルの女”第2組曲を編んだ際にあえて組み入れたわけである。フルートが大活躍する優雅なこのメヌエットはピアノ伴奏のフルート独奏曲としてもしばしば演奏される。

6. 宮城道雄

春の海

日本の箏曲家・宮城道雄（1894～1956）の代表作で、フランスのヴァイオリニスト、シュメーと作曲者の琴による録音で広く知られていた。最近ではランバルやガッツェローニなど世界の名フルーティストたちがよく愛奏しており、琴のパートもピアノの他にハーブで演奏されることもある。

7. 滝廉太郎

荒城の月

滝廉太郎（1879～1903）は日本における洋楽黎明期にピアニストおよび作曲家として出現した天才であったが、病を得て若くして世を去った。“荒城の月”は土井晩翠の詩による歌で、東京音楽学校が募集した中学唱歌の当選作のひとつである。

8. ジュナン

ヴェニス の謝肉祭

フランスのフルートの名手ジュナン（1832～1903）はフルートのための技巧的な小品をいくつか残している。この曲は序奏つきの変奏曲の形で書かれているが、主題のヴェニスの古い民謡はバガニーニも無伴奏ヴァイオリンのための主題と変奏 Op.10 に用いているのでヨーロッパではポピュラーな旋律であったらしい。曲は、序奏、主題、8つの変奏の3部に分けられるが、序奏にはカデンツァが、第4変奏の後にはアンダンテの間奏曲がそれぞれ挿入されて華やかな技巧をくりひろげる。

9. ベートーヴェン

ソナタ 変ロ長調

この曲は今世紀の初頭にベルリンで発見された写譜により出版されたもので、今日にいたるまでベートーヴェンの真作であるとは確認されていない。しかしもしこれがベートーヴェンの作品であるとするならば、その書法からみてボン時代末期の1790年頃に作曲されたものと推定されている。曲は4楽章の構成をとり、第1楽章アレグロ・モデラート、第2楽章ポロネーズ、第3楽章ラルゴ、第4楽章アレグロ・モデラートである。なお、第2楽章はスケルツォの代りとしてトリオを持つ3部形式で書かれ、第4楽章は主題と4つの変奏からなる。

10. エネスコ

カンタービレとプレスト

エネスコ（1881～1955）はルーマニア出身の作曲家兼ヴァイオリニストで、ウィーン音楽院とパリ音楽院で学んだ。この曲はエネスコがバリのエコール・ノルマルの教授をつとめていた1904年、同音楽院の卒業演奏の課題曲として作曲したもので、当時の名フルーティストであったポール・タファネルに捧げられた。曲名通りの2部構成で書かれ、カンタービレの部分はアンダンテ・マ・ノン・トロポの速さでよく歌い、続いて目覚ましい技巧を発揮する急速なプレストの部分に入る。

11. フォーレ

幻想曲 Op.79

フランス近代の作曲家フォーレ（1845～1924）は、平明、流麗な外観の中に抒情家としての天分を見事に貫き通した。この幻想曲もそうしたフォーレの音楽の特徴をよく示している小品で、彼がフルートとピアノのために書いた唯一の作品であろう。1898年の作で、これはエネスコの曲同様、名手タファネルに捧げられている。

12. 日本古謡

さくら、さくら

あらためて説明するまでもなく“さくら、さくら”はよく知られた日本の歌であるが、ここでは日本のフルートの大家、吉田雅夫の編曲による変奏曲として演奏される。まず元の旋律がゆっくりと奏され、続く2つの変奏でフルートの持つ華やかな技巧がきらびやかに展開される。

13. J.S. バッハ

ソナタ ト短調 BWV 1020

バッハ（1685～1750）のフルート・ソナタは無伴奏のものを除くと、厳密にはBWV 1030～35の6曲であり、いずれもケーテン時代の1720年頃に作曲された。ところでこのト短調のソナタは“フルートまたはヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ”となっており、作曲年代もバッハのかなり初期の頃ではないかと考えられている。しかし、ヴァイオリン独特の奏法を必要としないので今日ではフルート・ソナタとして演奏されるのが普通である。第1楽章アレグロ、第2楽章アダージョ、第3楽章アレグロ。

14. モーツァルト

ソナタ ヘ長調 K.376

この曲は本来ヴァイオリン・ソナタである。もっともモーツァルト（1756～91）のヴァイオリン・ソナタは、“ヴァイオリンの助奏を持ったピアノ・ソナタ”というのが正式の名称であり、ピアノの方に主導権が置かれていた。それでもモーツァルトがウィーンへ移った1781年以降の作はヴァイオリンのパートが重視され、2つの楽器の協奏的な性格も強められて行った。因みにこのヘ長調のソナタは1781年の春頃の作品である。第1楽章アレグロ、第2楽章アンダンテ、第3楽章アレグレット、グラチオーソ。

15. ファルカス

ルーマニア民族舞曲

ファルカス（1851～1912）はハンガリー出身の作曲家で、トランシルバニア地方（現在はルーマニア領）のクルージュの音楽院長をつとめ、この地方の音楽の振興に尽力した。彼の音楽は当時その地方でもはやされていたドイツ風のアカデミックな形式主義を排除することを理想とし、このルーマニア民族舞曲はそうした考えを示すための実例として書かれたものであろう。ルーマニアの民衆が持つ素朴な喜びが生き生きと描かれている。

16. ボルン

カルメン幻想曲

ビゼーの歌劇「カルメン」は初演こそ不評であったが、徐々にその真価が認められ、やがては世界でもっともポピュラーなオペラにまで数えられるに至った。ベルギーに生まれたボルン（1862～1929）は、パリに出てマスネ、サン＝サーンス、フランクラに学び、オペラの作曲に力を注いだといわれるが、パリにおける「カルメン」の人気を目の当りにみてこの曲の作曲を思い立ったに違いない。「カルメン」の中から、前奏曲中の「宿命の動機」、「ハバネラ」、「ジプシーの歌」、「闘牛士の歌」の4つの旋律をもとにした華やかで楽しい曲である。

17. ショパン

ノクターン 嬰ヘ長調 Op.15の2

ショパン（1810～49）が残した21曲のノクターンのうち、変ホ長調作品9の2と並んでもっともポピュラーな曲である。その憂いを含んだ甘美なメロディーはピアノからフルートに移されても少しもその特質は失われていない。こまやかな装飾音に包まれてかえってニュアンスの豊かさを増しているとさえいえるかも知れない。

18. プーランク

ソナタ

プーランク（1899～1963）はフランス6人組に属する作曲家で、ドビュッシーの印象主義を脱却して新しい音楽を打ち立てることを目標とした。その彼らの個々の作風となると一定の音楽的理念があったわけではなく、プーランクに限っていえばフランスの古典主義と直結した簡明で機智にあふれたスタイルを特色とした。この曲もそうした新古典派風の持ち味が発揮された作品で、旋律もベルカント・オペラのアリアのように美しい。1957年に作曲され、同年6月ストラスブール音楽祭でランバルのフルート、作曲者のピアノで初演された。第1楽章アレグロ・マリンコニコ、第2楽章カンティレーナ、第3楽章プレスト・ジョコーソ。

19. J.S. バッハ

トリオ・ソナタ ニ短調 BWV 1036

この曲が発見されたのは1904年のことであるが、本当に大バッハの作品であるかどうかは明確でなく、最新のバッハ作品目録からは外されている。ある学者の説によれば1709年または1710年頃のワイマール時代の初期の作であり、別の学者の説によるとそれよりずっと後の作品で作曲者も大バッハの長男ウィルヘルム・フリードリッヒであるという。しかしこの曲が持つ美しさは、そうした考証とは関係なしに永遠にそびえ立っている。なお、この曲はトリオ・ソナタの形で演奏されることが多いが、本来の形式は“2つの楽器のためのトリオ”ではないかと考えられている。教会ソナタの通例にしたがって4楽章からなり、第1楽章アダージョ、第2楽章アレグロ、第3楽章ラルゴ、第4楽章ヴィヴァーチェとなっている。

20. テレマン

フルート協奏曲 ニ長調

バロック末期のドイツにおけるもっとも活気にあふれた都市ハンブルク市の音楽監督としてテレマン（1681～1767）の名はバッハをしのぐほどの名声を博した。それは彼が古い対位法にも精通しながらも、積極的に新しい流行を取り入れて時代にマッチした作品を作ったからに他ならない。またテレマンが驚くほどの多作家であったことも彼の名を広めるのに役立ったに違いない。

このフルート協奏曲はテレマンがまだハンブルクに赴く前のフランクフルト時代（1712～21）の作と考えられており、おそらくはフランクフルト近郊の都市フラウエンシュタインのコレギウム・ムジクムのために作曲されたものである。古い教会ソナタのスタイルにならって4楽章で書かれているのは意外であるが、ヘンデル風のおおらかな楽想と美しい旋律がきわめて新鮮な印象を与える。第1楽章アンダンテ、第2楽章アレグロ、第3楽章ラルゴ、第4楽章アレグロ・アッサイ。

21. モーツァルト

フルート協奏曲第1番 ニ長調 K.313

モーツァルトがフルートという楽器について多くの知識を得たのは、1777年パリ旅行の途中に立寄ったマンハイムのオーケストラの名フルート奏者ヴェンドリングからであった。モーツァルトはまた当地でド・ジャンという金持ちのオランダ人アマチュア・フルート奏者を紹介され、彼からフルート協奏曲3曲とフルート四重奏曲2曲の注文を受けた。この協奏曲はその注文に応じて作曲された2曲の協奏曲のひとつであるが、アマチュアには吹きこなせないほど音楽的に高度な作品になっている。ことに第2楽章は技術的にも難かしいために、もう少し易しいアンダンテ K 315 を書いて差し替えてもよいようにしている。第1楽章アレグロ・マエストーソ、第2楽章アダージョ、第3楽章ロンド、テンポ・ディ・メヌエット。

22. ヴィヴァルディ

フルート協奏曲 ヘ長調 「海の嵐」 Op.10の1

バロック時代の協奏曲の代表的な種類は合奏協奏曲（コンチェルト・グロッソ）で、ソロ協奏曲の発達は比較的

遅かった。ヴィヴァルディはソロ協奏曲の確立に大きな役割を果たしたひとりで、彼が書いた450曲余りの協奏曲にはあらゆる楽器が独奏楽器として使われている。フルート協奏曲だけでも32曲が知られているが、これらがいずれも横笛のために書かれているのは、当時のヴェネチアのピエタにおける音楽教育がいかに進取の気風にあふれたものであったかを示している。

作品10の協奏曲は6曲からなり、その初めの3曲にだけ標題がつけられているが、第1番「海の嵐」というのは嵐による激しい波の動きを描いたものなのであろう。第1楽章アレグロ、第2楽章ラルゴ、第3楽章プレスト。

23. バッハ

管弦楽組曲第2番 口短調 BWV 1067

バッハの器楽作品の大半は彼がケーテンのレオポルド公の宮廷につとめていた1717年から23年の間に書かれているが、4曲の管弦楽組曲も同地のすぐれた楽団のために作曲されたものとみなされている。これらの曲が“序曲”とも呼ばれるのは、1曲目の序曲が楽曲の中心となるほど大規模に書かれ、しかも付点つきのリズムが特徴ともいえるフランス風序曲が作品の性格を規定しているからでもある。またこれらはいずれも協奏曲への接近をみせ、第2番はフルートが協奏曲の独奏楽器のごとく活躍する。①序曲、②ロンド、③サラバンド、④プレー、⑤ポロネーズ、⑥メヌエット、⑦パディネリー、の7曲からなる。



ムッシュランパルのこと

吉田 雅夫

私がランバルさんの音を最初に聞いたのはN響の北海道演奏旅行中、宿屋のラジオが素晴らしい音を出しているのに気がついた時でした。旅館の人にたのんできかせてもらいましたが、しばらくはポーッとしてしまったのをおぼえています。放送終了のアナウンスで、ただ今の演奏はジャン・ピエール・ランバルでしたと云うはじめて大きく名前でした。帰京するなりレコードを買いました。きけばきく程あきれたうまさ、それ以来あこがれの人の一人でした。

1960年、N響世界旅行の際、当時ランバル氏に師事していた故加藤君の案内でランバル氏の家、パリーのモーツァルト通りを訪問することが出来、感激でした。部屋の机の上にポッケリーニのコンチェルトの譜面、それもヨーロッパの各地の図書館に残っている三種類の異なったコピーを比較研究しているものが置かれていました。それ迄ランバル氏は、どんな曲でも初見で立派に演奏出来てしまう腕を持っている人、どんな曲でも簡単に吹いてしまう人と云う印象は、その時の加藤君の通訳で話しているうち、間違った考えであることを知りました。一つの曲をこんなに研究する人であることを知り尊敬の念を新たにしました。

ランバル氏が日本で尾高さんの協奏曲を読響と録音した時、見学させて頂いた。もっとも楽譜の間違いをチェックする役目も少々あった。この尾高さんの曲は決してやさしい曲ではない。ランバル氏も忙がしい為に充分練習出来なかつたことと云うことで、オーケストラと合わせると初めはうまく行かない。ところが三回目位になるともうちゃんと吹けてしまう。これには驚きました。と云うよりその技術に舌をまきました。私にはとうてい出来ないワザです。そして第3楽章迄来た所が、終り近くになって急に吹くのを止め、何か考えこんでいるなど思っていたら、客席に座っていた私に「マサオ!!」と大きな声をかけ、ちょっと来いと云うしぐさをします。何事かと思つてそばに行くと、楽譜のある個所を指さし「ここは不可能だ」と云うわけです。実はそこは作曲者の尾高さんから16分音符を一つづつ抜いて8分音符にしてもよいとおしえられていた所で、私にとってはそれこそ全く「不可能」な所でした。私は作曲者のことをば伝えたら、ランバル氏瞬間考えて云った言葉「私はランバルだ、だから楽譜通り吹く」と云ってその通り吹いてしまいました。驚くべき技術です。その日午前から午後にかけて全曲を一応録音をすまし、やれやれと思つたらそのあとで録音全部をききなおし、「ここはテーク5(録音の第5番目)ここはテーク10」と全部をこま切れにして総譜に指定するわけです。私はきいているだけで疲れてしまったのにランバル氏はケロッとして録音技術者に指示を与えているの

には、そのタフさ加減にあきれてしまいました。これでは、連日のリサイタルはとてこなせないでしょう。私にはとても考えられない体力です。大体一緒に食事すると私の四倍は軽くたべられるでしょう。気ばかりあせて体力がついて行かない私にはうらやましい限りです。この体力と同時にすごい運動神経の持主です。パリーでランバル氏の運転する車にのった時、車全部が秋の落葉におおわれ、前後が全く見えなくなっていました。エンジンをかけるなり、急にバック、そして急前進、落葉が一度にパッと吹きとんですごいです。驚いていたら、ランバル氏の奥様曰く、「うちの主人は何でも出来る人よ」これが亦ビックリでした。この調子で小人数のアンサンブルを全員乗せ演奏旅行に行くのだそうです。運転、演奏、の連続で疲れなから驚きです。

所で最初にランバル氏に逢った時、私はドイツの楽器を使っていたが、近代、現代の曲を演奏するのにやや不自由を感じていました。ランバル氏に相談した所、是非一度、フランス式の楽器を使ってみなさい、私がニューヨークの楽器店に手紙を書いて、貴方の為に良い楽器を確保しておいて上げるから、と云うことで私はニューヨークに着くなりすぐその店に行つた所、三本具合の良い楽器が私の為にとてありました。その内の一本がその後5年間、私の愛用の楽器となりました。初めてのフランス式の楽器で最初の内はとまどいましたが、なれるにつれ調子良くなり、私の尾高さんの協奏曲はこの楽器で演奏しました。ランバル氏の親切に感謝しています。

ランバル氏は日本へ来る時、気にしていることが一つあります。どこかのランバル氏の紹介文に、マルセル・モイズ先生に師事したと書いてある文を読んだらしいのです。私に或時「自分はモイズ先生に師事していない。このことを日本人につたえてほしい。自分の先生は父である」と云っておりました。ランバル氏のお父さんも立派なフルーティスト、そして教師であり、マルセイユの音楽学校の先生です。このマルセイユと云う所はフルートの歴史にとって忘れてはならない土地で、バツハ時代にはピッファルゲンと云う名人が出ております。有名なクヴァンツも、当時ピッファルゲンに師事しており、フルートのマルセイユ派とでも云えるかもしれません。この地中海沿岸は「地中海的な考え方」と云えるものがあるようで、ある点では楽天的な気質を持った人が出るようです。不思議なことに楽器の名人が出る所です。有名なヴァイオリンのバガニーニは同じ地中海沿岸のジェノワ出身です。私にはバガニーニとランバル氏の名人芸に何か相通じるものがあるような気がします。

亦、ランバル氏の何度きいても素晴らしい演奏が楽しめるのをたのしみにしています。

ジャン・ピエール・ランバル レコード総目録

●RCAレコード/ RVC株式会社

ERX-2002-3	J.S.バツハ：フルート・ソナタ全集
ERX-2004	ヴィヴァルディ：フルート・ソナタ集 Op.13「忠実なる羊飼ひ」
ERX-2006	モーツァルト：フルートとハーブのための協奏曲
ERX-2020	ヴィヴァルディ：フルート協奏曲 Op.10(全曲)
ERX-2034-5	ヘンデル/フルート・ソナタ全集
ERX-2039	メルカダント & チマローザ：フルート協奏曲
ERX-2084	モーツァルト：フルート協奏曲 Nos 1 & 2
ERX-2093	黄金のデュエット〜ランバル/ニコレ
ERX-2101	ハチャトゥリアン：フルート協奏曲
ERX-2112	J.S.バツハ：管弦楽組曲 No.2 他
ERX-2113	ランバル/無伴奏フルート・リサイタル
ERX-2122	テレマン=フルートとクラヴサンのための4つのソナタ
ERX-2125	モーツァルト：フルート・ソナタ集
ERX-2138	フランク & ビエルネ：フルート・ソナタ
ERX-2150	シューベルト：「しほめる花」の主題による変奏曲 シューマン：三つのロマンス/シュターミッツ：フルート協奏曲 他
ERX-2163	ドビュッシー/室内楽名曲選
ERX-2164	ジャネルラ：三つのフルート協奏曲
ERX-2201	ヴィオッティ、ディーター & ドゥヴィエンヌ=2本のフルートのための協奏曲
ERX-2208	ハンガリー田園幻想曲/ランバル
ERX-2224	18世紀ドイツ・フルート・ソナタ集
ERX-4004	フルートとパーカッション(ジ リヴェ作品集)
ERX-7029-31	J.S.バツハ：フルートのための作品集
ERX-2241	ブーランク：フルート・ソナタ/バルトック：ハンガリー農民歌/ドビュッシー：シュリンクス プロコフィエフ：フルート・ソナタ 3本、4本、5本のフルートのための音楽 フランス近代フルート協奏曲 ルクレール：フルート・ソナタ集 ドップラー & ロンベルク：フルート協奏曲
ERX-2245	タルティーニ：フルート協奏曲
ERX-2278	ドゥヴィエンヌ：フルート協奏曲集
ERX-2291-2	モーツァルト：フルートとハーブのための協奏曲
ERX-2298	ロッシニ：管楽四重奏曲
ERX-2300 }	ランバル/ラスキーヌ〜フルートとハーブ
ERX-2301 }	フルートのためのバロック音楽(I)
ERX-2310 }	” (II)
ERA-1055	J.S.バツハ：六つの五重奏曲
ERA-1062	
ERA-1063	
ERA-1071 (M)	
ERA-1072 (M)	
ERA-1091	
RVC-2097	ランバル・スウィング

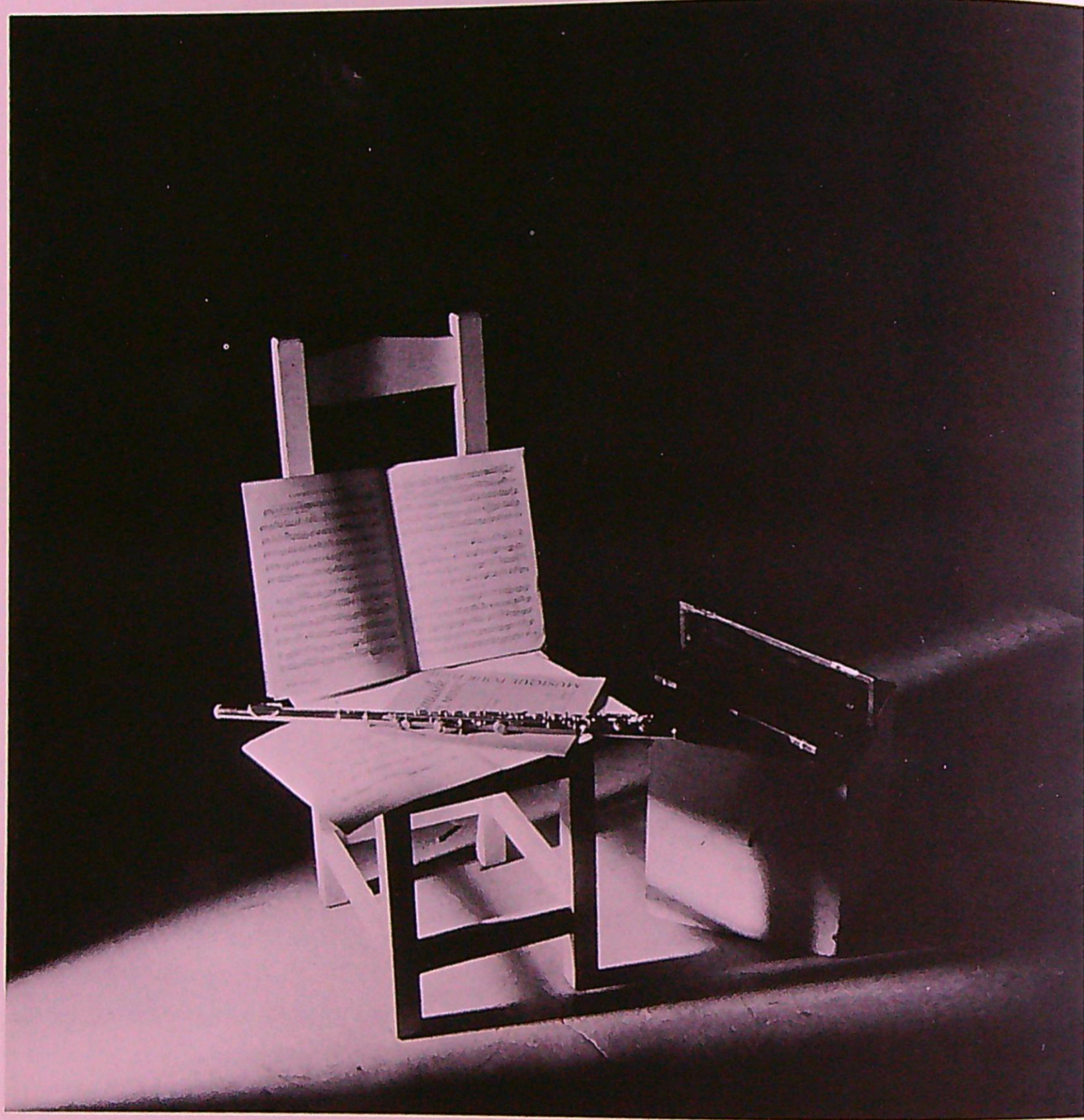
●コロムビア・レコード/日本コロムビア株式会社

OX-7007	テレマン：無伴奏フルートソナタの為の12の幻想曲集
OX-7006	ランバル/ラリー デュオリサイタル
OQ-7075	ランバル/ラスキーヌ 日本の旋律(フルートとハーブによる日本の調べ)
OZ-7019	ランバル ハンガリー田園幻想曲
OW-7068-9	ホームミュージックシリーズ フルード編(2枚組)
OW-7543-4	ハイドン：リラ協奏曲集(2枚組)
OW-7547	ベートーヴェン：フルードとピアノの為の音楽 第一集
OW-7548	ベートーヴェン：フルードとピアノの為の音楽 第二集
OC-7034	モーツァルト：フルード協奏曲 I・II

●フィリップス・レコード/日本フォノグラム株式会社

X-5604/(カセット)KCT-12019	ハンガリー田園幻想曲 ランバル黄金のフルードのひびき
FG-320	ブルックのメロディー ランバルフルードの至芸
PC-1526	サン・スーシー宮のランバル
PC-1558	ベルサイユ宮のランバル
SFW-113-4	ハンガリー田園幻想曲/グルックのメロディー ランバルフルードのおくりもの(2枚組)

ときこはひとりで.....ムラマツフルート



The Muramatsu
flute